

【開会 16:00】

○管理課長

これより、令和5年第1回佐呂間町総合教育会議を開催致します。

開会にあたりまして、武田町長より挨拶をお願い致します。

○武田町長

本日は時節柄大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

令和5年第1回の総合教育会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、日頃より、教育行政に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げますとともに、今年も一年間、引き続きよろしく願いいたします。

昨年というよりも、先月、12月中旬のクリスマス時期に季節外れの湿雪が連日降り続きまして、近隣市町では大規模停電が発生する災害に見舞われるという湿雪の怖さを思い知らされ、今期の冬はどうなることかと心配したところでしたが、その後は寒さが厳しいものの穏やかな天候に恵まれ、安堵しているところであります。

冬を楽しむスポーツでは、町営スキー場が1月14日にオープンしまして、私も初滑りに行ってきましたが、沢山の子供たちがボードを中心に楽しくゲレンデを滑る姿に目を細めたところでありました。

また、若佐小学校グラウンドに造成しているスケートリンクも16日にリンク開きを行い、子供たちと保護者が一体となったスケート少年団活動も、寒さに負けずに熱を帯びてきております。

スケートに関しまして、北海道中学校スケート大会での佐呂間中学生の活躍につきましては、前段での教育委員会でご報告のとおりであります。長年にわたる若佐小学校スピードスケート活動の成果でありまして、もっと、歴史を遡れば、学校統合前の栄小学校からの延長線上にある取り組みであります。

栄小PATの当番として、極寒の夜にタンク車を運転してリンクの水まき経験のある私としましても、鈴木姉弟の全国大会出場を大喜びしているところでありまして、町民皆で全国大会での健闘にも期待したいと思っております。

さて、平成27年にスタートした総合教育会議も、今年で9年目になりますが、本日は、昨年10月1日に就任した谷川教育長を交えた初めての会議になります。

谷川教育長も令和5年を佐呂間町の教育長として初めての新年を迎え、就任4か月目になりますが、職員間で共有しているスケジュール管理を見ましても、網走や札幌など多忙な業務を熟されているようにお見受けしております。

先日、20日～22日は、私とともに栃木県宇都宮市にあります県立美術館の企画展オープニングセレモニーに招待を受けて出張してまいりました。この企画展は、明治時代の足尾銅山鉍毒事件をテーマにした版画集を作品としている「版画家：小口一郎」の版画展でありまして、代表的な版画集3作品の一つ「鉍毒に追われて」は佐呂間町民センターの2階にも展示してありますが、昭和40年代中期に小口一郎が実際に佐呂間町栃木に滞在して作品を作ったという、佐呂間町にゆかりの深い版画であります。このようなご縁で、栃木県へ出張することとなり、田中正造の遺品などを展示している佐野市郷土博物館の視察や関係機関の方々との交流を深めることができ、佐呂間町の新たな歴史教育、社会教育のヒントを得てきたところであります。

本日の協議案件は、その他にも含めて2件ありますが、令和5年度教育予算（案）につきましては、新年度予算に要望する教育費関係の「事業費」予算要望事業でありまして、明日26日に、特別職、課長職による「事業費査定会議」にはかり、事業の緊急度や総体的な予算規模な

どを勘案の上、採択に至りますが、提出しております資料にある事業の中には「採択にならない事業もある」ことをご理解ください。

その他では、「児童生徒数の推移」についてご説明させていただきますが、今後ますます、少子化・高齢化・人口の減少が続いていく中で、佐呂間町民が郷土愛をより高め、町民意識の絆を深めていくためには、学校教育・社会教育の振興が重要な要素となります。そのためには、佐呂間町の特色を最大限に活かした教育を推進していかなければならず、教育委員皆様の、更なるご理解、ご協力を賜りたく存じますので、本日は忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

○管理課長

続きまして、谷川教育長より挨拶をお願い致します。

○教育長

3つ目の会議大変お疲れ様でございます。

先ほど町長から27年4月1日にこの総合教育会議が始まったという挨拶がございましたけれども、私もその時文科省におりまして、前年に国会審議しておりました。教育委員会を大きく見直すということで、教育委員長と教育長を一本化するというのが一本目の柱で、もう一つの大きな柱でこの総合教育会議を設置するというものでございました。この国会審議は隣の課でやっていたんですけど、本当に大変で審議会数が本当に多くて、すごく大変で成立したときに局を挙げて大喜びしたことを思い出します。まさか自分がこの総合教育会議に参加するようになるとは思っておりませんでしたので、非常に感慨深い思いを抱きながら参加させていただいております。

この総合教育会議の趣旨というのは、執行機関同士の意思疎通を図ってより一層民意を反映させて教育行政を実施していきましようとなっておりまして、是非、町長からも話ございましたけども忌憚のない意見を現場を見て感じていることなど是非ご要望いただきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願い致します。

○管理課長

これより議事に入りますが、佐呂間町総合教育会議運営に関する要綱第4条では、議長は町長になる事になっておりますので、これからの進行は町長をお願い致します。

○武田町長

それでは、4番の協議事項（1）令和5年度教育予算案につきまして議題といたします。こちらは、佐呂間町総合教育会議運営に関する要綱第5条の規定に基づきまして非公開といたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○教育委員

はい。

○武田町長

それでは、事務局より説明をお願いします。

<非公開>

○武田町長

（2）のその他で「児童生徒数の推計について」説明していただきたいと思います。

○管理課長

児童生徒数の推計について説明させていただきますが、議案についております資料について、年ごとの流れが、少しわかりづらいため、別で資料を作成しましたので、本日、お配りした資料2の方をご覧ください。

資料2は各学校別の児童生徒数の推計資料となります。

表の上段は、各小学校の令和5年4月1日時の学年・年齢の推計人数となります。例えば、令和5年4月1日に佐呂間小学校では、6年生37名、5年生22名という表で、5才・4才と続いています。これは、佐呂間小学校に来年度以降入学する人数となります。令和6年度では、5才欄の14名が佐呂間小学校に入学、令和7年度は、4才欄の24名が佐呂間小学校に入学するということとなります。この表から、令和6年度の小学校入学者数は、5才の欄になりますが、町内全体で16名となっております。

次に、小学校の表の下側「佐呂間中学校3年生人数」という表ですが、こちらは、令和5年度の中学校3年生が、43名、令和6年度の3年生は、38名、令和7年度は、34名という表になっており、上側の小学校の表の令和5年4月1日に6年生だった小学校の計43名が、そのまま下の表の同じ欄に行き、令和8年度に中学校3年生になる、5年生だった32名が令和9年度に中学校3年生になるという表になります。

この表の中学校3年生、卒業生の人数から、佐呂間高校への進学率を50%として入学者数を推計した表が、その下の「佐呂間高校推計入学者数」となり、令和6年度で21名の入学、令和7年度で19名が入学となり、令和12年度からは、12名、10名、13名、8名と厳しい状況が続く推計となっております。

進学率は、存続対策の効果もあり、令和3年度で62%、令和4年度で66%となっておりますが、令和5年度では、現在のところ50%程度と予想されることから、今回は、50%として推計しております。

また、点線より下側の表は、令和6年度から令和11年度までの在校生の推移を表にしたものになります。なお、先ほども少しお話をしましたが、佐呂間高校の令和5年度の入学者については、現在の中学3年生の進学先希望調査において、佐呂間高校を第1希望としている生徒が41名中21名のため21名として見込んでおります。

また、この推計から見ると浜佐呂間小学校の在校生は、現状維持という感じではありますが、若佐小学校は、令和8年度くらいから急激に減ってしまい、浜佐呂間小学校程度の在校生数になっていってしまうと推測されます。

以上で、各学校児童生徒推計資料の説明終わります。

○武田町長

佐呂間町の子供の数の推移というような、物の集計がここに集約されることになってしまうんですけども。地区ごとの数字も出ますんで、まずはこの表の中の質問から色々ご意見などあれば、お受けしたいと思っております。

上の小学校計の数字から佐呂間町の子供の数の推移ということになりますから、今の説明の中でも来年5年の入学者数は1年生27人いるけれども、6年になったら16人しか町内にいないことになっていきますね。4歳で34人ということなんで、意外と産まれるタイミングだとかでバランスが一つ下のところに集まったのかなということもあるんですけど。今の6年生の後は40人台ということは、ほぼないということですね。ここでいう5年生、6年生の43が32に下がってしまった後は、多くても30人台ということで、ずっと下に行きますと佐呂間高校

に入学者2分の1とするとですね。令和10年の16人で20人を下回るというようなことから、20人以上という復活はこの数字だけではないけど、色々な施策の中で佐呂間高校の魅力づくりをしていって、進学率が上がれば20人復活もあり得る数字になるんでしょうけど。基本的には入学者20人を下回れば閉校に向けたというような計画の中でも地域特例校というようなことでも10人ですけども。10人に近づいたときにどうしようではなくて、今からこういった資料の中で対策を考えていくというのが必要だと思うんですけども。やっぱり、この小学校の節目というのは、小学校のところで行けば5年生と6年生の間のところにあるのかなと気がします。

若佐小学校も栄小学校と統合になって、平成15、6年の議論をしている時は栄小学校と若佐小学校足したって20人前後でしか推移しないんで、これは統合ありきだなというところから、平成20年代になってリーマンショックだとか、都会の景気が悪くなった中で、新若佐小学校は長い教育委員さんわかって、50人くらいの学校になって教室が足りない話にもなった。

また、時間が経過するとこういった形になるので減らないような総合的な町づくりにかかわってくる問題なので。

○江刺委員

若佐が8年からこんな人数になっちゃうんですね。

○内藤委員

5年後で若佐と浜が逆転しますね。このままの推移で行きますと。

○平戸委員

産業的なものを見ても。若者主体のところだから。見込というのは中々。

○江刺委員

町長の中の感覚では、若佐小学校を残して、地域でという感覚ではいらっしゃるんですか。

○武田町長

もちろんです。まず、この数字で出てくる中でも入学者数が2年連続0だとか、学校全体でみても一桁の小さいほうだとか、一気にいくところがないですし、今見ても地域の特性を生かしたような教育をやっているというのは必要だと思いますので、通学の時間とか見てもやはり出来る限りこの小学校3校というのは維持していかなければならないということで、どういった施策をしていくかといったことも考えていかなければいけないですけども。なかなか今の産業の後継者ということだけでは非常に難しいのかなということもあるんで、移住定住というようなことも含めて町の魅力づくりというようなことで、そうなってくると町の観光情報の発信だとかいうようなことで、その数字に表れるというのは非常に難しいことでもあるんですけども。また、その中で新たな時代の変化だとかというような。学校統合のとき僕らがPTAで、関わっていて、揺れ動いてどうなっちゃうんだらうというような、そして役員もやらされてたんで、どんなこと考えても数字上で行けば栄小学校なんて、2年連続入学者いない、入学式も卒業式もない学校といった中でとてもじゃないけど残してくれなんてことは言えなかったですけど、その後は、ホップステップジャンプで若佐小学校と言えば栄小学校の方が多かったような話にもなりましたが、未来のことっていうのは今の数字だけでは見えない部分はあるんで、地方の方ももっともっと増えるような時代になればいいではなくてしていかなければいけない。

○内藤委員

何と言いますか小学校中学校の児童の数というのは、教育的にどうのこうというのは、町として産業をどうするかに関わってくるんですが。高校の場合ですと50%での計算ということになりますけど、50%をどうやって60%にしようか、70%にしようかということは私たち教育に携わる者としても行えることじゃないのかなと思うんですけども。私も高校生の息子おりますけど、感じとして佐呂間は教育面に関して非常に優れていると思いますし、一部どうしてもよりさらに上を目指していく子供たちが北見に行くのは仕方ない面があるかと思うんですけど、まだ、佐呂間でいてくれててもそんなに変わらない教育を受けられている層をよりもっと魅力を伝えて引き戻すということもあるんです。どうしても、小規模になって苦しいというところは部活動だと思います。中学校から継続して部活動をやって行きたい子供たちが出来ないがために、北見へ出るとかそういう選択をすることがあるかと思います。中学校の部活動の改革がこれから本当に行っていけないと時代に対応していけないところになってきています。その中で小中高ともに通してこういうことが出来るんだよことを中学校だけの改革に終わらせず、小中高をそこまで通してこういうスポーツが出来る、部活動が出来るそういうような変革に繋がられるようないいきっかけとして行っていったらなと思うところであります。よろしく願いいたします。

○教育長

実は、道教委からのオーダーがありまして、保育所と小学校の連携事業をやってくれないかと。道でやっているのはえりも町なんですけど、佐呂間もやってくれないかと。実は小学校と保育所のギャップがありまして、そこでの教育というのはすごく大事なんですということを言われまして、0歳から18歳を見通したプログラムを作りましょうとなってます。実は佐呂間にとっては魅力的といいますか、しっかりと地域として保育所から高校までつながっている地域だと思うので、それをですね立ち上げたいと思っているんですけどもそのメンバーにも中学校も高校も入っていただき、部活動の地域移行についても中学校も高校も小学校も入っていただくそういうメンバーで検討していきたいと思います。そういう意味では、保育所、小学校、高校まで連続した形で0歳から18歳までを見通した形で佐呂間町の教育を考える形でやりたいと考えています。その中で町長と同じで、小学校の3校については、存続しないといけないと思っています。というのは、文科省で話をしてきたんですけど距離がありすぎるんですね。スクールバスで移動する距離としては5、6キロが一般的かなと、10キロに20キロといった時に20キロは小学校1年生には遠すぎるよねという話もしていましたので、だからこそ授業を佐呂間小学校を拠点となって配信することによって、早い段階から最終的には中学校で一緒になりますので、同じ学年で交流する機会をというのも徐々に増やしていくことも考えていきたいと思ひまして、パッケージとしましては、0歳から18歳までそこを見通した形で考えていきたいなと思っています。そのネタとしては、部活動もあり、保小連携もあり、中高連携というものもありという風に考えています。

○武田町長

やっぱり、部活というのは子供たちにとっては魅力的なもの、学習だけではない伸ばしたいというところはあるんでしょう。人数が少なくなると団体のスポーツというのは、中学校に野球部ありますけど、高校に野球部があればと思いますけど少なくなれば難しいといったところだとか、だからと言ってすごい指導者連れてきて外部から寮まで建ててとか人数増やして野球

で町おこしみたいなことやろうという費用対効果も難しいところもあるんですけど。

まず、高校がなければならぬことがあるんで、これでも高校が閉校になって、基本的には中学校を卒業して進学するときに自宅から通える環境の高校がないからといった町にはしたくないです。そんな町の方向性も考えたくないところもあるんで、そうなると部活でいくと少人数でも何か魅力のあるようなといったところで、そんなことで高校の方でも写真コンテストとか、放送局の中では山崎ひとみさんという佐呂間高校でオホーツク管内のアナウンスの会社を立ち上げている方に指導してもらってとかといこともあって、放送局は全道にも行ったという成果もあるんですけども、出来るだけ地域であったり、そういったOBと連携を作っていかなければいけないと思うんで、逆にこんな人材が僕の友達にいるよということがあれば教えていただければと思うんですけども。こういう話を日頃より出来るような環境がたくさん必要なのかなと思いますので、その分は本当に1番真剣に考えなければと思います。

○江刺委員

中学生の子供を持つ親御さんに言われたことがあるんですけど、佐呂間高校でフォトコンテストをやった岸本さんという先生がそれなりにしてもらっているんなら、写真部を作ってくれたら少人数でも出来るんでそういう部分が魅力的に感じるような、指導者に魅力を感じるようなものがあるといいのかなと意見を言われたことがあるんですけど。

○武田町長

そういう意見が出るということで、少し進んだと思うんですけど、僕自身はそういうのを望んで、写真甲子園に3人いたら出れるからやってみたいなというような、学校か町でカメラを買うからといった形の中で、もっともっと困るような発展になれば、カメラマンを目指す子供が出たりとか、夢物語ではなくて環境があった場合次の一歩があるだというような、ことからしたら部がなくても同好会で行きましょうとか、そんなのも面白い。子供が持っている特性みたいなことを発見したりやったり、伸ばしていくということは大人の役割なのかな。

○教育長

部活動の地域移行の観点では、基本的には中学校ではあるんですけども、高校は道立なので道教委が管轄しているんですけども、部活動を設置するかしらないかは学校の判断なんですね。今でも部活動をまったくやらないという選択肢は学校長判断ではあり得るものなんですね。その認識自体が全然違う、そこから部活動をやりますかやりませんかという判断は学校長がするものなんです。ということから認識をいただきながら議論を進めていかなければいけない。やるとしたならば、どういうどう置きましょうかという話になるものですから、高校においてももちろん写真部を置きましょうと校長が判断すればいつでも出来るものです。

もっと言えば、部活動の地域移行の観点から、春は吹奏楽に入る、夏はサッカーをやるような四季で変えるとか、複数の部活動をやるような月曜日だけ写真部をしましょうという形にして複数やるとか、選択肢はいくらでも出来るんですね。そういう例えばの例を出しながら考えていきたいなという風に思っています。固定クラブだけしかやってはいけないという認識がどうしてもあると思うんですよ。あと、指導者どうしましょうかとか言った時には、都会の方では、ダンス部というのがあって、ダンスの指導者をリモートで授業を見てもらっているというそういうのも当たり前になっています。

○内藤委員

それこそおっしゃられように小学校、中学校、高校とそれぞれに学校長が設置というのは前提としてわかるんですけど、それは出来る中でそれぞれの学校、学校長でやっていただいているんですけど、私たちは町の教育委員会といたしましては、町として何かと考えたらちょっと冷たい言い方になりますけど、学校の先生たちって赴任で変わっていく中で佐呂間のその時の状況で考えて下さるんですけど。私たち地域で暮らして、地域で子供を育てていくことを考えるとなにかしら町としてのスタンスとしては、選択を一貫性あるような、それぞれの学校長でガタガタ変わるよりは、一本通るような道も、ただ、どうしても人数が少なくなってことからじゃあ一本通すなら少人数の事しかできないよということではなくて、先日の網走の研修会に行ってきた部活動の研修会でお話し聞いてきた時にですね。他の町の教育委員さんとお話ししたところどうしてますか聞いてみたところ、他の町の学校と連携して、何とか人数の必要なスポーツをやっている。そういうケースもありますんで、町としてだけで出来ることと他の町と協力しながらでもやっていこうとこころを視野に置きながら、それが中学校だけではなくて、おっしゃられたように保育所から小学校、中学校、高校もつと言うなら社会人にいつの地域でのスポーツの盛り上げに繋げていけたらなと思うところです。よろしくお願ひします。

○教育長

あくまでも、一番大事にしなければいけないポイントというのは、子供が主役なんですね。子供が何をしたかという、どう応えていくというのが一番の軸であることは間違いないと思います。

○武田町長

その中学校を中学生との懇談会の話になれば、トイレも出ましたし、僕たちは小さい学校だけでももっとも他の学校と交流したいという意見も出ました。ですから、コロナ化になってなかなか対面的な交流は難しいでしょうけども、リモートを使える時代に一気に増えてきたんで、色んな形の中でリモートを活用したことで小規模であっても感じないような形の教育の体制を考えたいなと思ってます。

○内藤委員

それでいくと事業費の電子黒板を是非。

○武田町長

落とされることはないんじゃないかな。

一気にやっぱり時代というか情報化の中で環境が変わってきていると思いますけど、子供たちは柔軟に対応出来るんでしょうけど、指導する先生は大変かもしれませんね。

○内藤委員

実施に分野が外れてしまうかもしれませんが、全町に光が来たということは、それぞれの小中高も含めて、保育所も含めると環境的に大分充実したのは分かるんですけど、実際に通ってみて何か不備みたいなの、もうちょっとこうしてほしい見たいなことは聞こえたりするんですかね。

○武田町長

逆に高校の方では、欠席してもそんなに支障が無いくらいのタブレットかなんかで、授業に遅れるとか無いような話を。

○教育長

コロナの濃厚接触者になった時でも、授業配信とかしてますんで、小学校もそうですけど。

○武田町長

昔、高校だったら欠席したら友達がノートをとってくれて、そのノートを写して追いつくとか、そんな時代じゃないということですね。

全町的に光が入ったということで出来たということですね。

○内藤委員

そう考えますと本当に全町の光前と光後の在り方といいたいまいしょうか、うちも仁倉なんでこの事業でやっと光が来るようになったんですけど、やっぱり違いますね。

○武田町長

思ったほど、もっと早いかなと思ったけど。大したことはないかな。遅くもないかな、混雑する時間もあるんでしょうけども。市街に住んでる人は元からですけど、僕らにしたら早く光にならないのかなと思ってたけど。若佐でいけば元々ADSLにしても、基地局が若佐から見行って川西とか啓生は早かったけど、栄になれば遅くなってたんでしょうけどね。そういった差もなくなってきたということで、コロナのおかげでそういった環境も出来たんでね、町の負担もほとんどなくといったところなんです。

○平戸委員

子供たちが外部の人たちと交流したいというなら、そういうのを活用して、人と議論するかそういうのも勉強になるし、そういうのを使って。

○内藤委員

それこそ、学校をコロナの関係で行けない時期があるとかそういう時でもしっかり配信することによって授業に後れを出さなくて済む。また、一部こういうこともあまり奨めすぎるのも方向性を考えなくてはいけないんですけど、不登校であるとかそういうことにも活用して子供たちがしっかりと教育を受けられる環境を進めていければありがたいことです。よろしくお願いします。

○武田町長

時間も経過しておりますが、そのあとの時間もたっぷりありますが、僕も進めていて次の第2部があるのを時間のことを気にしないで進めていましたけど、とりあえず協議事項としてのその他の部分の色々なご意見についてここまでにさせていただいて。5番のその他は何か事務局でありますか。

○管理課長

ないです。

○武田町長

ここで、閉めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

色々とたくさんのご意見いただきました。リモートを活用していく中で情報過疎にならないようなことを進めていきたいと思っておりますが、去年10月から谷川教育長に就任していただきまして、全国の先進的な事例を提供していただければなと思っておりますので、これから今までに無いような議論が出来ることに期待をしたいなと思っております。

それでは、第1回の総合教育会議この辺で閉めさせていただきたいと思っております。どうも、ご苦労様でした。

【閉会 17:12】